

めぐみイエス・キリスト教会

2024年1月21日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第692号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌343「罪に満てる世界」 p. 546

【交読文】 No.38 詩篇第121篇 p. 910

【賛美Ⅱ】 新聖歌486「雄々しくあれ」 p. 780

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「本当の自由」

【聖書朗読】 **マタイの福音書6章31節～34節(新約p. 11)**

【礼拝説教】 《神の国民の権威と権利とは?》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 (マタイの福音書6章31節～34節)

6:31 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

6:34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。」

●ポイント1.「神の国民(神の子ども)」とは？

※ローマ書8章14節～17節「神の御霊によって」(新約p.309下段)

8:14 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。

8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。

8:16 御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。

8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難を共にしているのですから、神の相続人であり、キリストと共に共同相続人なのです。

※エペソ人への手紙1章18節～19節「受け継ぐもの」(新約p.385上段)

1:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、

1:19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。

●ポイント2.主イエス様の弟子たちへの約束とは？

※ヨハネの福音書15章7節～8節「最後の晩餐において」(新約p.305)

15:7 「あなたがたが私にとどまり、私の言葉があなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

15:8 あなたがたが多くの実を結び、私の弟子となることによって、私の父は栄光をお受けになります。」

●ポイント3.預言者エリヤから学ぶこととは？

※第I列王記17章8節～16節「ツアレファテの寡婦」(旧約p.631下段)

◎先週の礼拝メッセージ【2024年標題聖句から(神の義とは)】

《先週は「神の国」について考えて見ました。今週は「神の義」について考えて見ましょう。聖書ははっきりと、パウロを通して語っています。『私たちがすでに指摘したように、ユダヤ人もギリシア人も、すべての人が罪の下にあるからです。次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。悟る者はいない。神を求める者はいない。すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行なう者はいない。だれ一人いない。」(ローマ3:9後半～3:12)』と。

そして聖書は、『人間には、一度死ぬことと死後に裁きを受けることが定まっている(ヘブル9:27)』ことを、明らかにしています。それだからこそ、すべての人間には、「救い主」が、絶対に必要なのです。

パウロはさらに、『もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物を溢れるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、命にあって支配するようになるのです。こういうわけで、ちょうど一人の違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、命を与えられます。』と教えています。

主イエスの「十字架」の身代わりの死によって、神の義が入って来ました。主イエスを心から信じる者には、神の義が与えられます。

ところで、なぜ主は「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。」と言われるのでしょうか。これは、「もとめ続けなさい」と言うことです。

なぜなら、私たちは、まだ「神の国」に到達してはいないからです。私たちは、まだこの世に置かれています。世は私たちの義を奪おうとします。それゆえ、パウロと同じ様に、私たちは、ゴールを目指して、歩み続けなければならないのです。私たちの義とは、主イエス様に対するまったき信仰です。信仰こそが、私たちを御国に導くのです。》

お知らせ

※次回は1月28日(日)となり、特別メッセージになります。前回の特別メッセージの続きとなります。通常通り午前10時から行ないます。